

《専門科目》

科目名	子ども家庭支援論				
担当者氏名	相田 まり				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-1 教養 <input type="radio"/> 2-2 知識・技能 <input checked="" type="radio"/> 4-4 態度・志向性				

《授業の概要》

この授業では、保育・教育施設および地域における家庭支援の基本的な考え方や方法について学ぶ。具体的には、家庭支援における保育の専門性、保育者の基本的な態度、地域や関係機関等との連携・協力、多様な家庭の現状と状況に応じた支援などについて、事例の検討を通して理解を深める。

本授業では、事例に基づくロールプレイやグループディスカッションを行う。

《授業の到達目標》

- ①子育て家庭に対する支援の意義や目的を理解し、説明することができる。
- ②保育の専門性を活かした家庭支援の意義や保育者の基本的な態度、関係機関等との連携・協力について理解し、説明することができる。
- ③多様な家庭のニーズに応じた支援について考察し、自身の考えを述べることができる。

《成績評価の方法》

中間試験50%、期末試験50%  
総合評価60点以上で合格とする。

《テキスト》

立花直樹・安田誠人監修、青井夕貴・中 典子・吉田祐一郎・谷村和秀編（2022）『子どもと保護者に寄り添う「子ども家庭支援論」』晃洋書房

《参考図書》

文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館  
厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館  
内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館

《授業時間外学習》

事前学習として、テキストの該当箇所を読んでおくこと。  
本授業では60時間の時間外学習を必要とする。

《課題に対するフィードバック等》

中間試験については授業内で返却し、解説を行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	家庭支援とは	子ども家庭支援の意義と必要性 事前学習：テキスト第1章を読んでおく
2	家庭支援の目的と機能	子ども家庭支援の目的と機能 事前学習：テキスト第2章を読んでおく
3	保育の専門性を活かした家庭支援	保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義 事前学習：テキスト第3章を読んでおく
4	保育者に求められる基本的態度	子どもの育ちの喜びの共有、保育者に求められる基本的態度 事前学習：テキスト第4, 6章を読んでおく
5	地域における子育て支援	保護者および地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援 事前学習：テキスト第5, 11章を読んでおく
6	自治体・関係機関等との連携・協力	自治体・関係機関等との連携・協力、子育て家庭の福祉を高める地域の社会資源 事前学習：テキスト第8, 9章を読んでおく
7	ディスカッション①	第1～6回の学修内容に基づくディスカッション 事前学習：第1～6回の学修内容を振り返り、ポイントをまとめておく
8	中間試験と振り返り	中間試験と振り返り 事前学習：中間試験に向けて、これまでの授業内容を振り返っておく
9	多様な家庭への支援	多様な家庭の現状と状況に応じた支援 事前学習：テキスト第7章を読んでおく
10	保育所等における家庭支援	保育所等を利用する子どもの家庭への支援 事前学習：テキスト第10章を読んでおく
11	要保護児童およびその家庭に対する支援	要保護児童およびその家庭に対する支援 事前学習：テキスト第12章を読んでおく
12	低所得世帯の児童や家庭に対する支援	低所得世帯の児童や家庭に対する支援 事前学習：テキスト第13章を読んでおく
13	特別な配慮を要する児童と保護者	特別な配慮を要する児童や保護者に対する支援 事前学習：テキスト第14章を読んでおく
14	いじめの現状と課題、家庭に対する支援	いじめの現状や課題と児童や家庭に対する支援 事前学習：テキスト第15章を読んでおく
15	ディスカッション②	第9～14回の学修内容に基づくディスカッション 事前学習：第9～14回の学修内容を振り返り、ポイントをまとめておく

《専門科目》

科目名	子ども家庭支援の心理学				
担当者氏名	友澤 加代				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-2 知識・技能 ○ 3-3 汎用的技能 ○ 4-4 態度・志向性				

《授業の概要》

子どもを理解する際に、最も身近な環境である家庭の存在を無視することはできない。この授業では、乳幼児期から老年期に至るライフステージに注目し、個人・家族それぞれの発達や発達を想像できるようにする。その上で、現代社会における家族・家庭の意義や機能、子どもの心身の健康と保健、精神疾患や障害について学び、保育者としての家庭支援を考える力を身につける。

《授業の到達目標》

子どもの発達や家庭環境を理解し、子どもや周囲の人々の発達と健康を支援する力を身につけることを目標とする。生涯発達、家族機能、心身の健康と保健などの知識を整理・統合し、議論できるようになることが望ましい。基礎知識の習得だけでなく、事例をもとに多様な家庭支援の在り方を述べられるように視点を養い、他職種との連携にも応用できるようにする。

《成績評価の方法》

授業への積極的参加（30%）レポートおよび提出物（40%）、確認テスト（30%）により得点化を行い、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

永房典之「新・子ども家庭支援の心理学」教育情報出版 2023

《参考図書》

・本郷一夫・神谷哲司(編著)「シードブック 子ども家庭支援の心理学」建帛社 2019  
 ・岡本祐子・深瀬裕子(編著)「シリーズ生涯発達心理学① エピソードでつかむ 生涯発達心理学」ミネルヴァ書房 2013

《授業時間外学習》

毎回の授業で、予習と復習（概ね4時間）の自己学習が必要である。

《課題に対するフィードバック等》

ワークシートでの課題を適時確認を行い、次回の授業で解説する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	子どもを取り巻く家庭環境	授業の進め方の説明 心理学的な考え方 子どもと家庭と社会 時間外学習（4時間）：序章を読んで予習する。復習をする。
2	生涯発達の視点	生涯発達の心理学と子ども家庭支援 時間外学習（4時間）：テキストの第1章を読んで予習をする。復習をする。
3	胎児期・新生児期・乳幼児期の発達	胎児期・新生児期・乳児期・幼児期の発達の特徴と支援 時間外学習（4時間）：テキストの第2章を読んで予習する。復習をする。
4	学童期・青年期の発達	学童期・青年期（思春期の子どもを含む）の発達の特徴と支援 時間外学習（4時間）：テキストの第3章を読んで予習する。復習をする。
5	成人期・中年期・高齢期の発達	成人期・中年期・高齢期の発達の特徴と支援 時間外学習（4時間）：テキストの第4章を読んで予習する。復習をする。
6	家族・家庭の意義と機能・支援	家族・家庭の意義とその支援 時間外学習（4時間）：テキストの第5章を読んで予習する。復習をする。
7	親子・家族の理解と支援	親子関係・家族関係の理解と支援 時間外学習（4時間）：テキストの第6章を読んで予習する。復習をする。
8	子育て経験と親としての育ちの理解と支援	親性の発達 親と養育行動 保護者に対する理解と支援 時間外学習（4時間）：テキストの第7章を読んで予習する。復習をする。
9	子育ての社会的状況と支援	ライフコース ワーク・ライフ・バランス 時間外学習（4時間）：テキストの第8章を読んで予習する。復習をする。
10	多様な家庭への理解と支援	育児不安 ひとり親家庭 サポートのない共働き夫婦 保育所・地域の支援 時間外学習（4時間）：テキストの第9章を読んで予習する。復習をする。
11	特別な配慮を要する家庭への理解と支援	貧困 虐待・マルトリートメント 保護者の病気や精神疾患 外国籍の子ども 時間外学習（4時間）：テキストの第10章を読んで予習する。復習をする。
12	子どもの障害・発達障害への理解と支援	知的障害 発達障害 子どもや保護者に対する支援 時間外学習（4時間）：テキストの第11章を読んで予習する。復習をする。
13	子どもの生活・生育環境とその影響・支援	貧困 家庭内暴力 子どもの犯罪・非行・問題行動 時間外学習（4時間）：テキストの第12章を読んで予習する。復習をする。
14	精神保健 子どもの心の健康とその課題・支援	子どもの精神疾患と種類 子どもの心の健康と課題・支援 時間外学習（4時間）：テキストの第13章を読んで予習する。復習をする。
15	討議：子どもをとり巻く生活環境とその支援	レポートをもとにディスカッション・発表 時間外学習（4時間）：レポートの作成と全15回の授業の振り返り。

《専門科目》

科目名	保育内容 総論				
担当者氏名	相田 まり				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 2-2 知識・技能 <input type="radio"/> 3-3 汎用的技能 <input checked="" type="radio"/> 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

これまで領域別に学んできた「保育内容（5領域）」に関する基礎知識等を踏まえ、3法令における保育の全体的構造を把握する。また、具体的な事例の検討を通して保育内容を総合的に捉える見方を身につけるとともに、指導計画の作成、評価の仕方等について学ぶ。

本授業では、グループディスカッションや模擬保育を行う。

《授業の到達目標》

- ① 3法令における保育の全体的な構造を理解し、説明することができる。
- ② 保育を取り巻く社会的状況や保育内容の歴史の変遷等を踏まえた上で、保育の基本的な考え方を理解し、具体的な計画・実践・記録・評価と結びつけて説明することができる。
- ③ 保育内容の具体的な事例について考察し、自身の考えを述べることができる。

《成績評価の方法》

中間テスト50%、模擬保育50%  
総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

指定しない

《参考図書》

文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館  
厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館  
内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館

《授業時間外学習》

事前学習として事前に配付した資料を読み、課題に取り組むこと。  
本授業では15時間の時間外学習を必要とする。

《課題に対するフィードバック等》

中間試験については授業内で返却し、解説を行う。模擬保育については授業内でグループディスカッションを行うとともに、教員から助言を行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	保育内容とは	保育内容の基本的な構造 事前学習：これまでの〈保育内容〉に関する学修内容を振り返っておく
2	保育内容の歴史①	欧米における保育内容の歴史 事前学習：事前に配付した資料を読み、課題に取り組む
3	保育内容の歴史②	日本における保育内容の歴史 事前学習：事前に配付した資料を読み、課題に取り組む
4	保育の現代的課題	現代社会における保育の意義と課題 事前学習：事前に配付した資料を読み、課題に取り組む
5	保育の基本的な考え①	養護と教育の一体的展開、環境を通して行う保育 事前学習：事前に配付した資料を読み、課題に取り組む
6	保育の基本的な考え②	子どもの主体性の尊重、個と集団の発達を踏まえた保育 事前学習：事前に配付した資料を読み、課題に取り組む
7	保育の基本的な考え③	生活や遊びによる総合的な指導 事前学習：事前に配付した資料を読み、課題に取り組む
8	中間試験と振り返り	中間試験と振り返り 事前学習：これまでの授業内容を復習し、ポイントをまとめておく
9	年齢に応じた保育と指導計画	3・4・5歳児の保育内容と指導計画 事前学習：事前に配付した資料を読み、課題に取り組む
10	保育の記録	保育の記録について 事前学習：事前に配付した資料を読み、課題に取り組む
11	指導案の作成①	模擬保育に向けた指導案の作成① 事前学習：これまでの授業内容を踏まえた上で、構想を練っておく
12	指導案の作成②	模擬保育に向けた指導案の作成② 事前学習：参考になりそうな保育の実践例について調べておく
13	模擬保育①	模擬保育① 事前学習：模擬保育の準備
14	模擬保育②	模擬保育② 事前学習：模擬保育の準備
15	全体のまとめと振り返り	全体のまとめと振り返り 事前学習：模擬保育の振り返りを行う

《専門科目》

科目名	子どもの健康と安全				
担当者氏名	佐藤 紀子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-1 教養 <input type="radio"/> 2-2 知識・技能 <input checked="" type="radio"/> 3-3 汎用的技能 <input type="radio"/> 4-4 態度・志向性 <input type="radio"/> 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

乳幼児期の子どもの成長発達は著しい。しかし乳幼児期は抵抗力や免疫力も未熟で未発達であり、感染症などの病気や怪我等で健康を阻害されやすい。災害や虐待への対応も含めて、保育士として、子どもの健康と生命の保持・安全を保障するために必要な知識・技術を講義・演習を通して修得する。授業で使用するテキストは、購入必須。

《テキスト》

- 「保育者のための 子どもの健康と安全」 鈴木美枝子編著 創成社
- 「子どもの病気とホームケア」日本保育保健協議会

《参考図書》

- 「保育のなかの保健」全国保育園保健師看護師連絡会
- 「保育のなかの事故」全国保育園保健師看護師連絡会

《授業の到達目標》

- ・保育者として必要な保健の基本的知識を学び、子どもの心身の健康の保持・増進が図れる実践力を身につける。
- ・子どもの生命を預かっている責任ある重要な仕事であることを自覚し話すことができる。
- ・子どもを取り巻く環境（保護者・地域の子育て支援・学校との連携・医療や療育との連携）への取り組みの重要性を自覚し説明できる。

《授業時間外学習》

- ・授業で示される課題学習
- ・復習（翌週の授業の際に、前週のポイントの確認を行う）
- ・本授業では15時間の時間外学習が必要である。

《成績評価の方法》

- ・最終試験は、グループごとの総合演習試験（30%）
- ・毎回の授業内に作成したレポート提出（50%）
- ・グループ学習での取り組み（協力・連携姿勢）（20%）
- ・総合評価60点以上を合格とする。

《課題に対するフィードバック等》

毎回講義のレポートを提出し翌週にアドバイス等を入れてフィードバックを行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	望ましい成育環境と安全対策	日本の人口動態、推移 先人に学ぶ成育環境とは（事前学習）人口動態を調べてくる 保健的観点を踏まえた保育環境 健康及び安全の管理5つのガイドライン
2	子どもの健康と保健活動の意義	保育のなかの保健 ヘルスプロモーションの考え方 多様性の理解（事前学習）子どもの保健演習を学ぶにあたり、保育者として知りたいことは？
3	発育の計測と評価 子どもの発達の評価	身体計測を行い身体発育曲線にプロットし評価 発達スクリーニング記録用紙のチェック項目（事前学習）自分の母子手帳の記載内容を見ておく
4	子どもの健康観察	日常生活における健康観察のポイント 保護者・職員との健康情報の共有 グループワーク・発表（事前学習）体温測定、脈拍測定、呼吸確認の仕方を調べておく
5	子どもの体調不良① 症状の見方と対応	子どもによく見られる症状への対応（発熱・咳等）（事前学習）症状への手当 演習：ホットタオル、クーリング、タッピング
6	子どもの体調不良② 症状の見方と対応	子どもによく見られる症状への対応（嘔吐・下痢・発疹・けいれん等）（事前学習）嘔吐処理の手順について調べておく
7	子どもの養護の仕方	子どもの養護の仕方、子どもの生活習慣への援助と教育、沐浴、シャワー浴 グループワーク・発表（事前学習）抱っこ・おんぶ・衣類の着脱・オムツ交換のポイント
8	感染症対策 衛生管理 予防接種	感染症の基礎知識「保育所における感染症対策ガイドライン」（事前学習）感染成立の3要因と対策について調べておく 成人用予防接種手帳
9	子どもによくあるケガの 応急手当①	子どもの発達とケガについて 危険性と手当 すり傷・切り傷・刺し傷の手当（事前学習）ケガをした子どもへの声掛けについて考えておく
10	子どもによくあるケガの 応急手当②	骨折・脱臼・熱傷・歯が抜けた・目の傷・耳や鼻に異物・鼻出血 等の手当（事前学習）救急箱の中身、持ち歩きの救急グッズはどんなものがよいか
11	保育の重大事故への対策 摂食のポイント	重大事故の起こりやすい活動とその対策 グループワーク・発表（事前学習）事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドラインを読んでおく
12	子どもの一次救命処置	保育現場での気道異物除去、心肺蘇生とAEDの使用をシミュレーションで実施（事前学習）乳幼児の心肺蘇生とAEDの使用方を調べておく
13	個別的な配慮が必要な子どもへの対応	アレルギー疾患や慢性疾患、障害のある子どもへの対応 エピペンの使い方（事前学習）エピペンとはどんな時に使用するものか調べておく
14	危機管理：災害時の対応	災害を受けた子どもの反応 アレルギー疾患がある子どもの災害への備えグループワーク・発表（事前学習）自分の居住地のハザードマップを確認し、家族の避難計画を作成
15	子どもの保健演習の総合理解	保育場面「こんな時どうする？」に対して、グループで役割を分担して発表（事前学習）居住地域のホームページから育児や保育の関連機関を調べる

《専門科目》

科目名	社会的養護Ⅱ				
担当者氏名	田中 久子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 2-2 知識・技能 <input type="radio"/> 3-3 汎用的技能 <input type="radio"/> 4-4 態度・志向性 <input checked="" type="radio"/> 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

社会的養育の方向性が明確化され、2017年の「新しい社会的養育ビジョン」は、改正された児童福祉法の理念を具体化している。授業では、子どもが権利の主体であることを理解し、家庭養育優先の理念のもと、代替として社会的養育を推進していくことを学ぶ。前期授業の内容をより深めるため、子どもの権利、制度、政策の実際を討議、発表を通じて具体的に修得する

《授業の到達目標》

- (1) 社会的養護の基礎的内容について具体的に説明できる
- (2) 施設養護及び家庭養護の実際について説明できる。
- (3) 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際を述べることができる。
- (4) 相談援助の方法・技術について説明できる。
- (5) 子どもの虐待防止と家庭支援について述べるができる。

《成績評価の方法》

レポート3回の評価30%、グループワークの評価10%、ワークシート評価10%、定期試験50%とし総合的に評価する。60点以上を合格とする。

《テキスト》

新基本保育シリーズ18  
相沢仁他編集「社会的養護Ⅱ」中央法規

《参考図書》

- ①子どもによる子どものための「子どもの権利条約」小学館（小口尚子・福岡鮎美著）②「ルボ虐待：大阪二児置き去り死事件」ちくま新書（杉山春著）③今から学ぼう！ライフストーリーワーク（才村真理著 福村出版）④福祉教育カレッジ「イラストでみる社会福祉用語辞典」

《授業時間外学習》

(1) 社会的養護に関わるニュースや身近な事象を常に意識しておくこと。(2) 各授業に参加するにあたって、事前に提示された課題を学習しておくこと。(3) 授業に必要な書物は問題意識をもって読了し、疑問点や検討事項をまとめておくこと。毎回の授業について予習、復習（概ね1時間）の自己学習が必要である。

《課題に対するフィードバック等》

レポートやワークシートに評価、感想を記載することでフィードバックを行います。加えて、質問や疑問点については授業内及び授業後に受け付けます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	子どもの権利擁護	子どもの権利擁護の基本を学び養育者としての取り組み運営の理解 予習：教科書p2-12復習：日本Unicef協会のHP「子どもの権利条約」参照（1時間）
2	社会的養護における子どもの理解	子どもの理解を深めていくためのアプローチを学び子ども及び家庭環境を理解する 予習：教科書p14-24 復習：教科書該当箇所・ワークシート（1時間）
3	社会的養護の内容① 日常生活支援	日常生活支援の実際を理解した上で事例分析を通じて支援の在り方の討議及び理解 予習：教科書p26-36 復習：教科書該当箇所・ワークシート（1時間）
4	社会的養護の内容② 心理的支援	心理的支援の目的と特徴、視点、実際を学び、その後、演習や事例を通しての理解 予習：教科書p38-48 復習：教科書該当箇所・ワークシート（1時間）
5	社会的養護の内容③ 自立支援	自立支援の基本及び事例分析を通じて自分の常識でない視点での対策を学ぶ 予習：教科書p50-60 復習：教科書該当箇所・ワークシート（1時間）
6	施設養護の生活特性および実際①乳児院等	各施設の特長や施設における援助方法を調べ理解を深める 予習：教科書p62-72 復習：教科書該当箇所・ワークシート（1時間）
7	施設養護の生活特性と実際②障害児施設等	児童心理施設、児童自立支援施設、障害児施設の特長や実際を演習形式で学ぶ 予習：教科書p74-84 復習：教科書該当箇所・ワークシート（1時間）
8	家庭養護の生活特性および実際	家庭養護とは、保育に求められる役割を理解する。里親等の実際をDVDを視聴し学ぶ 予習：教科書p86-96 復習：教科書該当箇所・ワークシート（1時間）
9	アセスメントと個別支援計画の作成	アセスメントや自立とは何かを理解した上で課題解決のグループワークを行う。 予習：教科書p98-108 復習：教科書該当箇所・ワークシート（1時間）
10	記録および自己評価	記録の意義と役割、自己評価を学ぶ。演習を通して理解を深める 予習：教科書p110-120 復習：教科書該当箇所・ワークシート（1時間）
11	保育の専門性にかかわる知識・技術・実践	保育士の位置づけを学び、演習形式で問題を抱えた子どもへの対応方法を学ぶ 予習：教科書p122-132 復習：教科書該当箇所・ワークシート（1時間）
12	相談援助の知識・技術とその実践	ソーシャルワークの知識や技術を理解した上で演習を通して対応方法を学ぶ 予習：教科書p134-144 復習：教科書該当箇所・ワークシート（1時間）
13	社会的養護におけるソーシャルワーク	「ソーシャルワーク」の意味、具体的に用いる知識・技術を演習を通して理解する 予習：教科書p146-156 復習：教科書該当箇所・ワークシート（1時間）
14	社会的養護における家庭支援	社会的養護の持つ「代替養育」以上の機能を学び、演習形式で実際を理解する 予習：教科書p158-170 復習：教科書該当箇所・ワークシート（1時間）
15	社会的養護の課題と展望	「社会的養護の課題と将来像」「新しい社会的養育ビジョン」を参考に今後を考察。予習：教科書p172-182復習：教科書該当箇所・ワークシート（1時間）

《専門科目》

科目名	保育・教育相談支援				
担当者氏名	高橋 淳一郎				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 2-2 知識・技能 <input checked="" type="radio"/> 3-3 汎用的技能 <input type="radio"/> 4-4 態度・志向性				

《授業の概要》

保育・教育場面における相談の意義と目的について理解し、保育・教育相談における今日の課題についてディスカッション等を通じて理解し、保育・教育相談に関する基礎的知識と技法を演習によって身につけ、保育者として相談に臨む基礎的態度を養う。また、保育者として職務を継続するためのメンタルヘルス向上のスキルを養う。授業ではあらかじめ与えられたテーマについて予習した内容をグループで共有する協同学習を行う。

《授業の到達目標》

- ①保育・教育相談の意義と理論を説明できる。
- ②カウンセリングの基本的な知識について説明し、技法を用いて相談援助の実践ができる。
- ③保育・教育相談の具体的な進め方を説明できる。
- ④チーム援助の具体的な方法を説明できる。
- ⑤自らのメンタルヘルス向上のスキルを身に付ける。

《成績評価の方法》

定期試験の得点を40%、授業内のワーク内容を40%、リアクションペーパーの記載内容を20%で評価する。  
総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

使用しない。  
必要な資料等は適宜配布する。

《参考図書》

児童育成協会(監修) 2019 新基本保育シリーズ19 子育て支援 中央法規  
 小橋明子(監修) 2020 子育て支援 中山書店  
 黒田祐二 2014 実践につながる教育相談 北樹出版

《授業時間外学習》

予習として各回で指示されたテーマについて調べる(30分)。授業後はノートをもとめて理解を深める復習をすること(30分)。本授業は合計15時間の時間外学習が必要です。

《課題に対するフィードバック等》

リアクションペーパーの記載内容については次週の授業で振り返りをおこなう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	保育における相談	保育場面における相談の意義と目的を理解する。＜授業外＞予習：「保育相談・教育相談の定義」を調べる(30分)。復習を(30分)。
2	3段階の援助サービス	学校心理学における3段階の援助サービスについて理解する。＜授業外＞予習：「開発的援助」「予防的援助」「問題解決的援助」を調べる(30分)。復習を(30分)。
3	多様な家族形態と子育て支援	現代の家族のあり方を学び、必要な子育て支援について理解する。(グループでの協同学習)＜授業外＞予習：子育て支援の形態について調べる(30分)。復習を(30分)。
4	子育て支援における保育者の役割	子育て支援で保育者が果たすべき役割を理解する。(グループでの協同学習)＜授業外＞予習：「アセスメント」「カンファレンス」を調べる(30分)。復習を(30分)。
5	連携と協働	校内・園内での連携のあり方、外部専門機関との連携のあり方を理解する。(グループでの協同学習)＜授業外＞予習：「チーム援助」を調べる(30分)。復習を(30分)。
6	カウンセリングの基本理論	主要なカウンセリングの理論について理解する。(グループでの協同学習)＜授業外＞予習：「来談者中心療法」「行動療法」を調べる(30分)。復習を(30分)。
7	援助者に求められる基本的態度	援助者に求められる基本的な態度について理解する。(グループでの協同学習)＜授業外＞予習：「カウンセラーの3条件」を調べる(30分)。復習を(30分)。
8	カウンセリング演習	3つの聴き方を実践し、応答技法について学ぶ。＜授業外＞予習：「傾聴」「応答技法」を調べる(30分)。復習を(30分)。
9	危機介入	保育現場で遭遇する危機を学び、危機介入のレベルと外部連携について理解する。＜授業外＞予習：「発達の危機」「偶発的危機」を調べる(30分)。復習を(30分)。
10	保護者理解	保護者との関係作りの方法を学び、家庭への支援のあり方を理解する。(グループでの協同学習)＜授業外＞予習：パイステックの7原則を調べる(30分)。復習を(30分)。
11	特別なニーズのある子どもと家庭への支援	障害など特別な配慮が必要な子どもと家庭への支援のあり方を理解する。(グループでの協同学習)＜授業外＞予習：インクルーシブ教育を調べる(30分)。復習を(30分)。
12	虐待の理解と対応	虐待が子どもに及ぼす影響を理解し、被虐待児への対応を学ぶ。(グループでの協同学習)＜授業外＞予習：児童虐待の種類と内容について調べる(30分)。復習を(30分)。
13	子育て支援の現状と課題	現代における子育て支援および保育・教育相談の課題を考える。＜授業外＞予習：「多文化共生社会」について調べる(30分)。復習を(30分)。
14	保育者のメンタルヘルス	ストレスとの付き合い方を学び、メンタルヘルス向上のための方策を身に付ける。＜授業外＞予習：「ストレスマネジメント」について調べる(30分)。復習を(30分)。
15	現場で求められる保育・教育相談とは	これまで学んだことを振り返り、子育て支援および保育・教育相談のあり方を考える。＜授業外＞これまでの授業ノートを振り返り整理する(30分)。復習を(30分)。

《専門科目》

科目名	保育・教職実践演習				
担当者氏名	中村 敏男、武内 道郎				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 3-3 汎用的技能 <input type="radio"/> 4-4 態度・志向性 <input checked="" type="radio"/> 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

保育者として必要な基本的資質や能力が形成されたかについて確認するために、グループワークや発表学修を通して、保育者としての自分のあり方について考え、不足する部分を補い、課題を見出し、保育者に求められる実践力を高める。

《テキスト》

必要に応じて授業担当者がプリントを配布する

《参考図書》

小田豊監修 中坪史典編著「保育・幼児教育方法論」建帛社 2019  
 埼玉県幼稚園教育課程編成要領 2018

《授業の到達目標》

- ①実習をもとに幼児理解の方法を具体的に説明できる。
- ②保育者に求められる資質について具体的に説明できる。
- ③実習中に行った実践について改善点を把握できる。
- ④実際の園行事等に参加し、保育実践力を身につけることができる。
- ⑤幼児を対象とした実践的活動の企画・立案・実践から応用力を身につけることができる。

《授業時間外学習》

準備学習を十分に行い、必要に応じて参考文献を読んでおく。意欲的な発言・探究活動を重視するとともに、事後学習として省察内容の定着を目指す。（本科目では30時間の時間外学修が必要です。）

《成績評価の方法》

校外の実習を含めた授業内で行うグループワーク・発表学修50%、及び授業における課題レポートの内容50%で評価し、60点以上を合格とする。

《課題に対するフィードバック等》

本授業を履修できるのは、教育実習Ⅱ・保育実習Ⅱ・保育実習Ⅲのいずれかを完了した者とする。レポートは次回以降の授業でポイントや注意点を説明するなど適宜フィードバックする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	保育者としての使命	社会が求める保育者の資質、保育者の責務について考える。 準備学習：1年次「保育者・教職原論」の関連項目を見直しておくこと
2	幼児理解	子どもの様子をもとに、幼児理解の内容や方法について考える。（映像資料に対するグループ討議）準備学習：実習中の子どもの様子で、気になった事案を抽出しておくこと
3	子どもの健康	実習の経験をもとに、子どもの健康や対応のし方について考える。 準備学習：実習先の園の健康指導の状況を発表できるように準備しておくこと
4	遊びと発達	子どもの遊びの様子に注目し、子どもの発達について考える。（映像資料に対するグループ討議）準備学習：年齢ごとの一般的な子どもの発達の特性を見直しておくこと
5	保育における食育	食育の大切さや、指導上の留意点について考える。 準備学習：実習中に行った食育の状況を発表できるようにしておくこと
6	障害児への理解と援助	様々な障害の状況を知り、対応や援助について学ぶ。（映像資料に対するグループ討議）準備学習：実習中の、特別な配慮が必要な子どもへの対応についてまとめておくこと
7	ことばを育てる	子どもの言葉の実態を確認し、言葉の発達を支える関わり方を考える。（グループワーク）準備学習：言葉の発達を促すための実習園の様々な工夫についてまとめておくこと
8	保護者との連携	保護者との連携の在り方、具体的方法についてロールプレイを通して学ぶ。 準備学習：実習中、保護者との連携で気づいたことを発表できるように準備すること
9	保育における危機管理	実習の経験をもとに、保育における危機管理について考える。（グループワーク）準備学習：具体的な「危機」の例を3つ考え、保育者の動きについて考えておくこと
10	クラス経営における担任の役割	担任の集団指導・個人指導の在り方について考える。（グループワーク、発表学修）準備学習：担任となることを想定して、不安に感じることを書き出しておくこと
11	保育者間の連携	日常の連携の在り方や、園の行事における保育者間の連携の在り方について考える。準備学習：実習園での保育者間の連携の状況をポータルサイトに事前に入力しておくこと
12	幼保小連携の意義	幼保小連携の意義と小1プロブレムへの対応について学ぶ。 準備学習：「小1プロブレム」の具体的内容をインターネット等で調べておくこと
13	ストレスへの対応	専門職業人として、ストレスへの対応方法を学ぶ。 準備学習：自分にとってどのような状況がストレスとなるか想像して書き出すこと
14	履修カルテ入力	後期の授業の省察と保育者としての9月時点での課題は克服できたかを検討する。（グループワーク、発表学修）事前学習：履修した全ての科目の入力を済ませておくこと
15	学び、成長し続ける保育者	よい保育者、学び・成長し続ける保育者となるためのポイントを考える。 準備学習：保育者を目指した理由を思い出し、今後の課題を考えておくこと

《専門科目》

科目名	保育・教職実践演習				
担当者氏名	武内 道郎、中村 敏男				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 3-3 汎用的技能 <input type="radio"/> 4-4 態度・志向性 <input checked="" type="radio"/> 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

保育者として必要な基本的資質や能力が形成されたかについて確認するために、グループワークや発表学修を通して、保育者としての自分のあり方について考え、不足する部分を補い、課題を見出し、保育者に求められる実践力を高める。

《テキスト》

必要に応じて授業担当者がプリントを配布する

《参考図書》

小田豊・中坪史典編著「保育・幼児教育方法論」建帛社 2019  
 埼玉県幼稚園教育課程編成要領 2018

《授業の到達目標》

- ①実習経験をもとに幼児理解の方法を具体的に説明できる。
- ②保育者に求められる資質について具体的に説明できる。
- ③実習中に行った実践について改善点を把握できる。
- ④実際の園行事等に参加し、保育実践力を身につけることができる。
- ⑤幼児を対象とした実践的活動の企画・立案・実践から応用力を身につけることができる。

《授業時間外学習》

準備学習を十分に行い、必要に応じて参考文献を読んでおく。意欲的な発言・探究活動を重視するとともに、事後学習として省察内容の定着を目指す。  
 (本科目では30時間の時間外学習が必要です。)

《成績評価の方法》

校外での実習を含めた授業内で行うグループワーク・発表学修50%、及び授業における課題レポートの内容50%で評価し、60点以上を合格とする。

《課題に対するフィードバック等》

本授業を履修できるのは、教育実習Ⅱ・保育実習Ⅱ・保育実習Ⅲのいずれかを完了した者とする。レポートは次回以降の授業でポイントや注意点を説明するなど適宜フィードバックする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	履修カルテ	履修カルテの意味の理解、内容の省察、今後の学習を見直し。準備学習：全ての科目の入力を済ませる。実習の省察、後期に向けての課題をポータルサイトに入力すること。
2	実習の振り返りと再検討(課題の気づき)	実習の中で気づいた自らの課題を洗い出し、グループで討議する。(グループワーク) 準備学習：実習中に感じたり気づいたりした課題等についてまとめておくこと。
3	実習の振り返りと討議(グループ討議の発表)	実習を通しての課題に対するグループ討議、テーマごとに発表。(グループワーク、発表学修) 準備学習：発表に向けて討議の結果を整理しておくこと。
4	遠足引率実習の計画	園児を遠足で校外施設に引率するケースを想定した計画を作成する。(グループワーク) 準備学習：グループで検討するための内容を準備しておくこと。
5	遠足引率実習(学びの内容)	遠足場面を想定し、実際に校外施設に行き、幼児の学びの場の観点で考える。(グループワーク、フィールドワーク) 準備学習：どんな学びの場面が実施可能かを準備する。
6	遠足引率実習(安全の確保)	遠足場面を想定し、実際に校外施設に行き、幼児の健康管理・安全確保の観点で考える。(グループワーク、フィールドワーク) 準備学習：想定される危機管理等を準備。
7	遠足引率実習訓練(まとめ)	遠足引率実習のまとめと報告。(グループワーク、発表学修) 準備学習：校外施設で感じた課題等についてまとめておく。
8	実習報告会(発表資料の作成)	実習全体で気づいた点をグループでまとめ、1年生に伝える資料について検討する。(グループワーク) 準備学習：できるアドバイスについて考えておく。
9	実習報告会(クラス内)	実習全体で気づいた点をテーマごとにグループでまとめ、クラス内で発表する。(発表学修) 準備学習：効果的なプレゼンの方法、物品などを準備しておく。
10	実習報告会(1年生へ)	実習全体で気づいた点をテーマごとにグループでまとめ、1年生に伝える。(発表学修) 準備学習：前回報告会の反省をもとに、プレゼン方法の改良を準備する。
11	フィールドワーク・園行事(運営の実際)	園での行事・ボランティアに参加し、行事等の運営の実際について学ぶ。準備学習：園へのアポイント、必要な準備を整えておくこと。
12	フィールドワーク・園行事(保育者の動き)	園での行事・ボランティアに参加し、保育者間の連携の様子等について学ぶ。事後学習：反省点などをまとめておくこと。
13	フィールドワーク・園行事(まとめ)	行事の進め方、保護者・地域・保育者同士の連携の省察。(園での行事・ボランティア) (発表学修) 準備学習：気付いた事、反省点などをまとめておくこと。
14	部分実習の再検討Ⅰ(課題の気づき)	実習中の子どもの関わりの場面で、指導者からの指導、記録をもとに課題を出し合う。(グループワーク) 事前学習：子どもと関わる場面の実習記録の内容を確認。
15	部分実習の再検討Ⅱ(討議と発表)	子どもとの関わりの中で、課題ごとのグループ協議により、解決の方策を探る。(グループワーク、発表学修) 事後学習：子どもとの関わり方に関する改善点をまとめる。

《専門科目》

科目名	教育課程及び教育方法・技術論				
担当者氏名	中平 浩介				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-1 教養 <input checked="" type="radio"/> 2-2 知識・技能 <input type="radio"/> 3-3 汎用的技能 <input type="radio"/> 4-4 態度・志向性 <input type="radio"/> 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の指導技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識、技術を身に付ける。幼児教育の現場におけるカリキュラムマネジメントの意味を理解できる。また、全体的な計画の中の各種行事の意義を理解し、実際に行事計画を作成し、実演する。そのことにより、行事の持つ意味、保育者の役割をつかむ。

《授業の到達目標》

子供たちの興味・関心を高めたり、学習内容をふりかえったりするために、幼児の体験との関連を考慮しながら情報機器を活用して効果的に教材等を作成・提示することができる。幼稚園・保育所等で実際に行われている園行事の意義、目的を理解し、実施計画を立案し、保育者及び園児を想定した、出し物を実演することができる。幼稚園教育要領の性格及び位置づけ並びに教育課程編成の目的を説明できる。

《成績評価の方法》

電子紙芝居の提出(30%)、電子紙芝居の発表(30%)、クリスマス会のグループ発表(30%)、たよりの作成(10%)により評価し、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

必要に応じて適時説明プリントを配布する。

《参考図書》

2022年最新改訂版! ワード/エクセル/パワーポイント 基本の使い方がぜんぶわかる本 (これだけマスターすれば困らない!) ムック2023/10/24

《授業時間外学習》

授業に積極的に参加するとともに、完成度の高い作品が作成できるよう努力すること。毎回の授業について、復習を中心に4時間の授業時間外学習が必要である。つまり本授業では60時間の時間外学習を必要とする。

《課題に対するフィードバック等》

作成した作品や発表内容についてその場で口頭でフィードバックする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	電子紙芝居の概要	電子紙芝居とはどのようなものか。これまでの作品を見る。 準備学習：ペイントを起動し絵を描いてみる。
2	電子紙芝居作成で使用するソフトウェア	電子紙芝居を作るためのソフトウェア（ペイント・パワーポイント・エクセル） 準備学習：パワーポイントを起動し、「PowerPointへようこそ」を学習してみる。
3	電子紙芝居の計画	童謡や童話を題材とした子ども向け電子紙芝居作成（案作成・完成までの計画作成）準備学習：どのような作品にするのかデザインを作成しておくこと。
4	電子紙芝居の作成1	童謡や童話を題材とした子ども向け電子紙芝居作成（画面作り・部品作り） 準備学習：作品のデザインや色彩などを決めておくこと。
5	電子紙芝居の作成2	童謡や童話を題材とした子ども向け電子紙芝居作成（画面作り） 準備学習：作品のデザインや色彩などを決めておくこと。
6	電子紙芝居の完成と提出	童謡や童話を題材とした子ども向け電子紙芝居作成（完成・提出） 準備学習：提出のためある程度作品を完成させておくこと。
7	電子紙芝居の読み聞かせ（発表）①	3～5回に作成した電子紙芝居の読み聞かせ活動（実践） 準備学習：発表準備をしておくこと。
8	電子紙芝居の読み聞かせ（発表）②	電子紙芝居の読み聞かせ実践と評価（個人評価及び他者評価） 準備学習：発表の練習及び発表に関する評価規準をよく読んでおくこと。
9	電子紙芝居の読み聞かせ（発表）③	電子紙芝居の読み聞かせ実践と評価（個人評価及び他者評価） 準備学習：発表の練習及び発表に関する評価規準をよく読んでおくこと。
10	電子紙芝居の読み聞かせ（発表）④	電子紙芝居の読み聞かせ実践と評価（個人評価及び他者評価） 準備学習：発表の練習及び発表に関する評価規準をよく読んでおくこと。
11	園行事の実際①（クリスマス会の活動）	クリスマス会の出し物の計画の作成（幼児用・保育者用）グループディスカッション 準備学習：インターネット等を活用しクリスマス会について調べておくこと。
12	園行事の実際②（クリスマス会の実際・発表）	グループごとの発表（幼児用・保育者用）・個人評価及び他者評価 準備学習：リハーサルをグループごとに行っておくこと。
13	園行事の実際③（クリスマス会の実際・発表）	グループごとの発表（幼児用・保育者用）・個人評価及び他者評価 準備学習：リハーサルをグループごとに行っておくこと。
14	カリキュラムマネジメント・教育課程の実際①	食育について学ぶとともに、幼児期からの食育の重要性を啓発する「食育だより」の作成 準備学習：インターネットで幼児期における食育の重要性について調べておくこと
15	カリキュラムマネジメント・教育課程の実際②	幼児の健康（安全・安心）について学び、幼児の安全・安心に関するたよりの作成 準備学習：インターネットで幼児施設等の安全・安心について調べておくこと。

《専門科目》

科目名	保育のピアノ応用Ⅱ				
担当者氏名	根岸 恭子、山田 真澄、平峯 章生、渡邊 公実子、脇岡 龍耶				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-1 教養 <input checked="" type="radio"/> 2-2 知識・技能 <input type="radio"/> 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

本授業では、保育の場での実践をより意識した童謡の弾き歌いや、ピアノ曲演奏技術の学習を行う。短時間で童謡伴奏を習得する技術を身につけ、就職試験の準備、試験対応を意識した授業内容とする。

《テキスト》

越智光輝「子どもとうたおう ピアノでド・レ・ミ!」三恵社

《参考図書》

- (1) 進捗状況に応じて次の①～③より各自で用意する。  
 ①全訳バイエル 全音楽譜出版社  
 ②ブルクミュラー25練習曲 全音楽譜出版社  
 ③ソナチネアルバムⅠ巻 全音楽譜出版社  
 (2) 幼稚園、保育所等の実習で演奏する曲

《授業の到達目標》

- ・童謡の弾き歌いは伴奏の難易度により取得点数が異なるが、その合計が合格基準の点数を満たすことができる。
- ・参考図書①から③のピアノ曲が1曲演奏できる。
- ・簡単な初見視奏ができる。
- ・指定された音階と主要三和音を弾くことができる。

《授業時間外学習》

授業（個人レッスン）は練習の場ではなく、事前・事後学習で見つかった課題を解決する場と捉え、教員から提示された課題を自己学習して次回の授業に備える。  
 (本授業では15時間の時間外学習が必要です。)

《成績評価の方法》

ピアノ実技成果発表50%、童謡弾き歌い、もしくは童謡の初見伴奏45%、音階と主要三和音5%で総合的に評価し、60点以上を合格とする。

《課題に対するフィードバック等》

各課題については、毎授業、時間内に実技の個人指導を行い、適宜コメントする。ピアノ実技成果発表の実施後には、口頭で改善点を個別にフィードバックする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	学習の進め方 童謡の弾き歌いの練習	授業内容と方法の説明、受講グループ及びピアノ曲決定/童謡の弾き歌い、及び音階と主要三和音の練習 [時間外学習]:次回に向けての練習(1時間)
2	童謡伴奏もしくは 視奏・ピアノ曲の習得	1・2班:1週目に決定したピアノ曲・音階と主要三和音、3週目に発表する童謡 3・4班:1週目に決定した童謡等の発表 [時間外学習]:次回に向けての練習(1時間)
3	童謡伴奏もしくは 視奏・ピアノ曲の習得	1・2班:2週目に取り組んだ童謡等の発表、3・4班:1週目に提示されたピアノ曲・音階と主要三和音、及び4週目に発表する童謡 [時間外学習]:次回に向けての練習(1時間)
4	童謡伴奏もしくは 視奏・ピアノ曲の習得	1・2班:2週目に提示されたピアノ曲・音階と主要三和音、及び5週目に発表する童謡 3・4班:3週目に取り組んだ童謡等の発表 [時間外学習]:次回に向けての練習(1時間)
5	童謡伴奏もしくは 視奏・ピアノ曲の習得	1・2班:4週目に取り組んだ童謡等の発表、3・4班:3週目に提示されたピアノ曲・音階と主要三和音、及び6週目に発表する童謡 [時間外学習]:次回に向けての練習(1時間)
6	童謡伴奏もしくは 視奏・ピアノ曲の習得	1・2班:4週目に提示されたピアノ曲・音階と主要三和音、及び7週目に発表する童謡 3・4班:5週目に取り組んだ童謡等の発表 [時間外学習]:次回に向けての練習(1時間)
7	童謡伴奏もしくは 視奏・ピアノ曲の習得	1・2班:6週目に取り組んだ童謡等の発表、3・4班:5週目に提示されたピアノ曲・音階と主要三和音、及び8週目に発表する童謡 [時間外学習]:次回に向けての練習(1時間)
8	童謡伴奏もしくは 視奏・ピアノ曲の習得	1・2班:6週目に提示されたピアノ曲・音階と主要三和音、及び9週目に発表する童謡 3・4班:7週目に取り組んだ童謡等の発表 [時間外学習]:次回に向けての練習(1時間)
9	童謡伴奏もしくは 視奏・ピアノ曲の習得	1・2班:8週目に取り組んだ童謡等の発表、3・4班:7週目に提示されたピアノ曲・音階と主要三和音、及び10週目に発表する童謡 [時間外学習]:次回に向けての練習(1時間)
10	童謡伴奏もしくは 視奏・ピアノ曲の習得	1・2班:8週目に提示されたピアノ曲・音階と主要三和音、及び11週目に発表する童謡 3・4班:9週目に取り組んだ童謡等の発表 [時間外学習]:次回に向けての練習(1時間)
11	童謡伴奏もしくは 視奏・ピアノ曲の習得	1・2班:10週目に取り組んだ童謡等の発表、3・4班:9週目に提示されたピアノ曲・音階と主要三和音、及び12週目に発表する童謡 [時間外学習]:次回に向けての練習(1時間)
12	童謡伴奏もしくは 視奏・ピアノ曲の習得	1・2班:10週目に提示されたピアノ曲・音階と主要三和音、及び13週目に発表する童謡 3・4班:11週目に取り組んだ童謡等の発表 [時間外学習]:次回に向けての練習(1時間)
13	童謡伴奏もしくは 視奏・ピアノ曲の習得	1・2班:12週目に取り組んだ童謡等の発表、3・4班:11週目に提示されたピアノ曲・音階と主要三和音、及び15週目に発表する童謡 [時間外学習]:次回に向けての練習(1時間)
14	ピアノ実技成果発表	ピアノ曲の実技演奏(ノーカット、リピートなし)および指定された音階と主要三和音の演奏。試験後、実技演奏の振り返り [時間外学習]:次回に向けての練習(1時間)
15	童謡伴奏の発表 実技成果発表の振り返り	童謡の弾き歌いの発表、音階と主要三和音のまとめ 最終評価の確認 [時間外学習]:発表のための練習(1時間)

《専門科目》

科目名	子どもの体育				
担当者氏名	桐原 由美				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 2-2 知識・技能 <input type="radio"/> 4-4 態度・志向性 <input checked="" type="radio"/> 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

幼児期においては、遊びを中心とする身体活動を十分に行うことにより、多様な動きの獲得や体力・運動能力等を培うことが重要である。本科目では、運動遊びや運動の楽しさを体験するとともに、指導に必要な、身体能力・運動技能・運動活動への意欲を高め、合わせて自らの体力の向上と健康の保持増進を行う。各自が教材（動きや運動遊び、ルール）のアイデアを持ち寄り、紹介し合い、体験する。

《授業の到達目標》

①幼児期の運動文化（運動遊び）を体験することにより、多様な幼児期の活動について修得し実践することができる。同時に、②主体的な運動遊びの工夫と創造により柔軟な発想力や応用力をもって遊びを考えることができる。

《成績評価の方法》

授業における提出課題（20%）、発表（20%）、授業への取り組み状況（意欲・主体性・積極性・運動量等）（20%）、学習ノート（40%）で評価し、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

テキストは特に定めない。

《参考図書》

○荒木美那子 他編著：幼児の楽しい運動学習 ○幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領  
 ○前橋明著：0～5歳児の運動遊び指導百科 ひかりのくに 2016  
 ○岩崎洋子編：保育と幼児期の運動あそび 萌文書林 2018 ○池田裕恵編：子どもの元気を取り戻す保育内容「健康」第二版 杏林書院 2018

《授業時間外学習》

予習として、各回の[準備学習]に示した内容を行い授業に臨むこと。復習として、各回の学習内容について、授業で学んだことをノートにまとめるとともに、自分なりのアイデアを描き加えていくこと（本科目は15時間の授業時間外学習が必要です。したがって、各回において、予習復習合わせて1時間の時間外学習を行ってください）。

《課題に対するフィードバック等》

授業において提出を求めた課題は、都度コメントを付してフィードバックする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	移動運動	色々な移動運動を行う [準備学習]移動運動の種類を覚えておく
2	子どもの体操(1)	子どもの体操を通して、自身の体の各部位の動きを意識する [準備学習]ラジオ体操を行っておく
3	子どもの体操(2)体操の創作	既製曲を活用して子どもの体操を創作する（グループワーク） [準備学習]活用できる曲を探しておく
4	子どもの体操(3)創作体操の発表	作成した体操の発表（グループワーク）と解説書を完成させる [準備学習]解説書案を作成すると共に、発表に向けて練習しておく
5	保育における運動遊び	運動遊びを考え・実行する上で留意していることについて講義する [準備学習]実習等の経験から子どもの遊びの様子についてまとめておく
6	遊具を使わない遊び(1)鬼遊び	鬼遊びを楽しみ、子どもの鬼遊びについて考える [準備学習]どのような鬼遊びがあるか調べておく
7	遊具を使わない遊び(3)ジャンケン遊び	ジャンケンを活用した遊びを楽しみ、子どものジャンケン遊びについて考える [準備学習]「ジャンケン遊び」には、どのような遊びがあるか調べておく
8	遊具を使わない遊び(4)2人組の遊び	2人組の遊びを楽しみ、子どもの2人組の遊びについて考える [準備学習]「2人組の遊び」には、どのような遊びがあるか調べておく
9	遊具を使わない遊び(5)力くらべの遊び	力くらべの遊びを楽しみ、子どもの力くらべの遊びについて考える [準備学習]「力くらべの遊び」には、どのような遊びがあるか調べておく
10	運動会ー種目を考える	運動会の種目を考える（グループワーク） [準備学習]運動会の種目について、本やインターネットで調べておく
11	小さい遊具を使った遊び	ボール、フープ等を使った遊びを楽しみ、子どもの遊びについて考える [準備学習]ボール・ロープ・フープ等を使った遊びを調べておく
12	身近な物を使った遊び-紙皿・紙コップ	フライングディスクを作って遊ぶ [準備学習]フライングディスクを使った遊びを調べておく
13	日本の伝統的な遊び	独楽回しが出来るようになる [準備学習]保育に生かせる伝統的な遊びを調べておく
14	からだ遊び(1)創作	言葉遊びを活用して動きを考える [準備学習]「じゅげむ」を覚えてくる
15	からだ遊び(2)発表	創作したからだ遊びを発表する [準備学習]発表に向けて練習しておく

《専門科目》

科目名	子どもと遊び				
担当者氏名	相田 まり				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<input type="radio"/> 1-1 教養 <input type="radio"/> 2-2 知識・技能 <input checked="" type="radio"/> 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力			

《授業の概要》

この授業では、遊びの理論を学ぶとともに、保育教材としての玩具の役割について理解を深める。また、事例の検討や保育現場での観察を通して、遊びにおける保育者の関わりについて考察する。

本授業では、グループディスカッションやフィールドワークの実施を予定している。

《授業の到達目標》

- ①子どもの成長・発達における遊びの意義を説明することができる。
- ②遊びにおける保育者の関わりについて、自身の考えを述べることができる。
- ③遊びの理論について、基本的な内容を理解し説明することができる。

《成績評価の方法》

ミニレポート20%  
 フィールドワーク報告会での発表40%  
 最終レポート40%  
 総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

プリントを配付する。

《参考図書》

佐伯 胖編（2023）『子どもの遊びを考える——「いいこと思いついた!」から見えてくること』北大路書房  
 汐見稔幸・加藤繁美・加用文男（2001）『これが、ボクらの新・子どもの遊び論だ』童心社  
 そのほか、授業中に適宜紹介する。

《授業時間外学習》

事前学習として事前に配付した資料を読み、課題に取り組むこと。  
 本授業では60時間の時間外学習を必要とする。

《課題に対するフィードバック等》

ミニレポートについては授業内で返却し、解説を行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	子どもと遊び	子どもの成長・発達と遊びについて 事前学習：子どもの頃経験した遊びの種類や内容を振り返っておく
2	遊びの理論①	ホイジンガ 事前学習：事前に配付したプリントを読んでおく
3	遊びの理論②	カイヨワ 事前学習：事前に配付したプリントを読んでおく
4	遊びの理論③	ゴッフマン 事前学習：事前に配付したプリントを読んでおく
5	幼児教育における玩具①	フレーベルの恩物 事前学習：事前に配付したプリントを読んでおく
6	幼児教育における玩具②	モンテッソーリ教具 事前学習：事前に配付したプリントを読んでおく
7	絵本の歴史	絵本の歴史 事前学習：事前に配付したプリントを読んでおく
8	ミニレポート発表会	これまでの授業内容を踏まえたミニレポート発表会 事前学習：子どもの頃好きだった遊びについて考察し、ミニレポートを作成する
9	事例の検討	映像資料に基づく事例の検討 事前準備：これまでの授業内容を振り返り、ポイントをまとめておく
10	フィールドワーク①	保育現場における遊びの観察① 事前学習：事前に配付したプリントを読んでおく
11	フィールドワーク②	保育現場における遊びの観察② 事前学習：前回の記録を振り返っておく
12	フィールドワーク報告会	フィールドワークについての報告会 事前学習：観察記録をもとに発表資料を作成する
13	幼児教育のオルタナティブ①	森のようちえん 事前学習：事前に配付したプリントを読んでおく
14	幼児教育のオルタナティブ②	シュタイナーの幼児教育 事前学習：事前に配付したプリントを読んでおく
15	全体のまとめと振り返り	全体のまとめと振り返り 事前学習：授業全体の内容を振り返り、ポイントをまとめておく

《専門科目》

科目名	保育のための調理基礎				
担当者氏名	田中 祐作、米澤 澄子、田中 辰也				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-2 知識・技能 ◎ 3-3 汎用的技能				

《授業の概要》

子供と共に安全に調理することができ、将来の保育現場の食育に活かせる料理を学び、その活動の大切さを理解するために学修する。グループで実技の習得状況を確認しながら進めていく。

《テキスト》

必要に応じてプリント配布

《参考図書》

高橋書店：からだに美味しい野菜の便利帳

《授業の到達目標》

①調理をする上での衛生管理について説明できる。②安全に正しく調理器具を使用することができる。③簡単な調理作業子どもに教えることができる。④各授業で制作した料理のポイントと楽しさを伝えることができる。

《授業時間外学習》

復習を兼ねて毎回の授業の内容と学修記録として毎回の内容の感想をノートにまとめる。授業最終回にノートの提出を求めます。本授業は29時間の時間外学修が必要です。

《成績評価の方法》

評価は授業態度40% ノート・レポート提出30% 学修記録30%とし総合評価60点以上を合格とする。

《課題に対するフィードバック等》

実習時はエプロン・三角巾・指定靴を着用し、爪は短く切る。必要に応じて修得状況を確認しその都度不十分な部分を口頭でフィードバックする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	調理実習の心得・実習室の使い方 (田中辰)	手洗い等の衛生面、実習室の使い方、正しい包丁の持ち方について【時間外学習】本時の復習をする。
2	食材と相性パン料理 (田中祐)	色々な食材使いパン使用して発想と組み立て想像豊かさ学ぶ【時間外学習】本時の復習をする。
3	基本生地【ショートペースト】について (米澤)	基本のクッキーを作り、焼成までを行う。可塑性油脂を使用した生地の注意点や作業の仕方を学ぶ。【時間外学習】本時の復習をする。
4	アイシングデコレーションについて (米澤)	焼いたクッキーにアイシングを使用して飾りをつける。子供と一緒に調理の楽しさを学修する【時間外学習】本時の復習をする。
5	一緒に楽しく作れる料理 (田中祐)	好き嫌いをなくすアイデア料理を学ぶ。【時間外学習】本時の復習をする。
6	食育に活用できるイタリア料理の献立 (田中辰)	子どもと共同して作業できる、捏ねる・丸める等の工程を取り入れた献立【時間外学習】本時の復習をする。
7	子供の簡単おやつ (米澤)	菓菓のデザートを簡易にアレンジしたおやつの実習。プリン、ババロア、シューアラクレームなどの実習。【時間外学習】本時の復習をする。
8	色彩りお弁当 (田中祐)	お弁当箱の選び方・詰め方・適切な量・彩りについて学ぶ。【時間外学習】本時の復習をする。
9	・	・
10	・	・
11	・	・
12	・	・
13	・	・
14	・	・
15	・	・

《専門科目》

科目名	多様な子どもと保育				
担当者氏名	櫻井 康博				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-2 知識・技能 ○ 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

今、保育園や幼稚園では、多様な子どもへの支援・指導が課題となっています。そこで、発達障がいなど、多様な子どもの姿をどのように受け止め理解し支援・指導したらよいか、事例研究も交えながら子どもの心理と行動を学びます。そして、多様性を受け止め、お互いを認め合い包みあえる関係である共生社会についても考えます。グループワークやICTを活用し学びの共有化、深化を行います。

《授業の到達目標》

- ①今の子どもの多様性について説明ができる。
- ②発達障がい児の理解・支援・指導について説明できる。
- ③事例研究を通し多様な子どもへの対応方法を説明できる。
- ④ユニバーサルデザインを見つけられる。
- ⑤ダイバーシティ&インクルージョン時代の保育園・幼稚園のありかたについて意見をもつ。

《成績評価の方法》

授業における提出課題・発表（80%）、最終レポート（20%）で評価し、60点以上を合格とする。

《テキスト》

授業で、講師が作成した資料を配布する。

《参考図書》

発達支援「PriPri パレット」世界文化社

《授業時間外学習》

毎授業、リアクションペーパーを授業時間外学習として課するなど復習を要する。  
またユニバーサルデザインなどの調査・発表や最終レポート作成など授業時間外学習として課する。  
本授業は29時間の時間外学習が必要である。

《課題に対するフィードバック等》

授業において提出を求めた課題は、次時間にて共有化し学びを深める。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	多様性とは	導入 本授業の見通し 保育園・幼稚園等における多様性を考える [時間外学習]リアクションペーパー オープンエデュケーション1
2	今の子どもを理解する	前時の振り返り 多様な子どもや家庭環境に気づく [時間外学習]リアクションペーパー 埼玉の特別支援教育
3	障がいとは	前時の振り返り 社会的モデルを通して障がいのとらえ方を学ぶ [時間外学習]リアクションペーパー オープンエデュケーション2
4	発達障がい児の理解と対応	前時の振り返り 発達障がい児の理解と対応を学ぶ [時間外学習]リアクションペーパー ユニバーサルデザイン
5	ユニバーサルデザイン① 事例研究①	前時の振り返り ユニバーサルデザインの発表 事例研究を行う [時間外学習]リアクションペーパー ユニバーサルデザイン
6	ユニバーサルデザイン② 事例研究②	前時の振り返り ユニバーサルデザインの発表 事例研究を行う [時間外学習]リアクションペーパー オープンエデュケーション3
7	D&Iとは	前時の振り返り D（ダイバーシティ）&I（インクルージョン）について学ぶ [時間外学習]リアクションペーパー オープンエデュケーション4・5
8	まとめ	前時の振り返り 保育士・幼稚園教諭としての在り方を考える [時間外学習]リアクションペーパー オープンエデュケーション6
9	—	—
10	—	—
11	—	—
12	—	—
13	—	—
14	—	—
15	—	—